

第27回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：2020年9月14日（月）13：00～15：00

2. 場所：オンライン会議

3. 出席者：

（委員）

小山 憲司 中央大学 文学部 教授
相原 雪乃 北海道大学附属図書館 事務部長
斎藤 未夏 東京海洋大学 学術情報課長
瓜生 照久 九州大学附属図書館 事務部長
粟谷 禎子 公立はこだて未来大学情報ライブラリー
原 修 立教大学図書館 副館長
飯野 勝則 佛教大学図書館 専門員
近藤 茂生 立命館大学図書館 学術情報部 次長
柴尾 晋 明治大学 学術・社会連携部生田図書館事務室副参事
大向 一輝 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
福島 幸宏 東京大学大学院情報学環 特任准教授
塩崎 亮 聖学院大学基礎総合教育部 准教授
小野 亘 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
片岡 真 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（陪席）

木下 聡 国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長

（事務局）

阪口 幸治 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 係長
村上 遥 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 係長

<配付資料>

委員名簿

第26回これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

- 1-1. 2020年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画
- 1-2-1. 2020年度システムモデル検討作業部会の活動について
- 1-2-2. 2020年度システムモデル検討作業部会 委員名簿
- 1-3-1. 2020年度システムワークフロー検討作業部会の活動について
- 1-3-2. 2020年度システムワークフロー検討作業部会 委員名簿

2. 2019年度 JUSTICE 提案書情報のデータ共有に関する実証実験結果報告
3. デジタルアーカイブを中心としたメタデータ流通検討（報告）
4. CAT2020 について（報告）
5. COVID-19 環境下における学術コンテンツサービスの対応について（案）
6. NACSIS-CAT/ILL 参加館向け図書館システムアンケートの実施について（案）
7. 図書館総合展について（案）
- 8-1. 学術コミュニケーション技術セミナー（JPCOAR Monday）講師の推薦について（依頼）
- 8-2. 『情報の科学と技術』への寄稿について（依頼）
- 9-1. フォーラム・セミナー等の参加状況について（報告）
- 9-2. CiNii Research に関する検討会の設置について（報告）

<参考資料>

1. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
2. これからの学術情報システムの在り方について（2019）
3. システムモデル検討作業部会内規
4. システムワークフロー検討作業部会内規
5. システムモデル検討作業部会 2020 年度計画
6. システムワークフロー検討作業部会活動計画
7. 「図書館システム及び関連システムに関するアンケート」回答（抜粋）

4. 議事：

議事に先立ち、事務局より 6 月 6 日付のメール審議において、「これからの学術情報システム構築検討委員会規程」に基づき、互選により委員長として小山委員を選出した旨の報告があった。

2020 年度の委員について、事務局より「委員名簿」をもとに説明を行い、6 月 15 日付のメール審議において、システムモデル検討作業部会主査を相原委員、システムワークフロー検討作業部会主査を飯野委員に決定した旨の報告があった。

1. 2020 年度の活動について

(1) 委員会の活動について

事務局より、資料 1-1 について報告があった。

(2) システムモデル検討作業部会の活動について

相原委員より、資料 1-2-1～1-2-2 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 現行の参加館はローカルシステムを個々に調達していることもあり、共同のコミュニティに参加しているという意識は低いのではないか。
- ▶ 共同調達、共同運用に向けて、現状では具体的なシステムの形を提示できていな

い。参加館のコミュニティ参加へのモチベーションをいかにして高めるかが課題である。

- ▶ これから委員会の課題としては、「統合的発見環境」の実現が大きな到達目標だが、「統合的発見環境」とは何か、その枠組みをいま一度明確にしたい。
- ▶ 「統合的発見環境」は研究者や学生など利用者に対するサービスだが、他方その裏側にある「基盤」は、図書館員の業務を簡素化・高度化するためのシステムでもある。一般利用者および図書館員という 2 種類の利用者を見据えた統合的発見環境の整備を進めていきたいと考えている。
- ▶ オープンフォーラムでは「共同調達」に多少なりとも関心があることがわかったので、この点を足掛かりに、より多くの理解を求めたい。
- ▶ 国立大学図書館協会と当委員会共同で行った「図書館システム及び関連システムに関するアンケート」(後日公開予定)によると「「在り方」の検討事項のうち、より優先的に検討を進めるべきと考える事項」で共同調達を優先的とした回答は少ない。オープンフォーラムと回答者層が異なることは確かだが、そうした現状があることも念頭に置いて検討を進める必要がある。
- ▶ 上記アンケートの回答からは、研究データなどの新たな課題に目が向けられ、基盤的な学術情報システムには関心が低いと感じる。課題をどのように見せていくかについても検討が必要である。

(3) システムワークフロー検討作業部会の活動について

飯野委員より、資料 1-3-1~1-3-2 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 統合的発見環境班のタスクの射程が広すぎるように思われる。システムモデル検討作業部会では参加館に対して 2022 年開始に向けたモデルの提示を考えているが、当該班は、いつまでの実現を念頭に検討しているのか。
 - ◇ 2022 年の選択的な導入を考えたときにナレッジベースを重点課題と考え、タイムスケジュールを考えた。一方で統合的発見環境班では電子ブックと次期 ILL の 2 つの事項を検討しているので、組み合わせるかたちで考えたい。
- ▶ システムワークフロー検討作業部会、システムモデル検討作業部会の両部会で検討すべき課題は重なり合っていることから、今後も両部会で連携し、議論を進めていくようにしていきたい。

2. 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) との連携について (報告)

事務局より、資料 2 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ フィードバックがあった内容については、随時取り入れ、今後もシステムワークフロー検討作業部会中央システム班で議論を進める。

3. 国立国会図書館と科学技術振興機構との連携について（報告）

事務局より、資料 3 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- 本年度、本委員会が携わるタスクはおもに NDL との連携事業のようだが、DOI など JST とはどのように検討を進めるか。
- ◇ 新規事業 2、3 の上位にあたる新規事業 1 の枠組みで、JST とも連携して検討を進める。

4. CAT2020 について（報告）

事務局より、資料 4 について報告があった。

- CAT2020 は 8 月 3 日の運用開始から、大きな問題なく順調に稼働している。
 - CAT2020 が開始して現場の反応はどうか。
 - ◇ 開始当初には RELATION や WebUIP 等のバグの調整を行ったが、改修済である。CAT2020 ではレコード調整を廃し、別書誌データ作成にあたって参加館の裁量が増加したことにより、判断に迷うケースも多いようで、NII には関連した問い合わせが増えている。また、NII における品質管理について従来通りの運用やレベルで継続するのか、今後も検討が必要と考える。
 - 今後事例が集まってきたら類型化して議論を進めていくとよいと考える。検討の結果、業務分析表の継続の要否について、資料 6 で別途扱う参加館向けアンケートの一項目として検討を行うこととした。
- また、Z39.50 の CAT2020 対応について、ベンダーと参加機関と調整のうえで、進めることとした。

5. 国立情報学研究所の活動について

(1) 次期目録所在情報サービスの調達について（報告）

事務局より、中央システムの調達状況について報告があった。

(2) COVID-19 環境下における学術コンテンツサービスについて(審議)

事務局より、資料 5 について説明があり、審議を行い、承認した。

- COVID-19 環境下における参加館への調査は、資料 6 で別途検討する参加館向けアンケートの一項目として実施することとした。
- ILL のステータス公開については、COVID-19 環境下の業務支援になる。各館情報の流通が促進され、各図書館がよりの確に知ることにつながる。サービスに寄与するデータは積極的に公開し、参加館の基盤づくりに貢献してほしい。
- 参加館の更新が滞るなど最新情報ではない可能性はあるが、大きな問題は認められない。公開する方向で調整する。

6. NACSIS-CAT/ILL 参加館向け図書館システムアンケートの実施について(審議)

小野委員より、資料 6 と「図書館システム及び関連システムに関するアンケート」(後日公開予定) について説明があり、審議を行い、アンケートの実施について承認した。

アンケート項目等の詳細は、委員長を中心に検討することとした。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- システムモデル検討作業部会の委員は全員大学図書館の所属であるので、それ以外のさまざまな機関の現状を知るためにぜひ実施してほしい。
- 国立大学にとっては「図書館システム及び関連システムに関するアンケート」も回答しており、二度手間になるのではないか。
- ◇ 「図書館システム及び関連システムに関するアンケート」の質問を可能な範囲で簡素化するとともに、本委員会で審議した内容を加味して調整する。
- 国公私、研究所等の機関ごとの比較ができるような項目立てを検討してほしい。

7. 図書館総合展について (案)

事務局より、資料 7 について説明があり、審議を行い、原案のとおり承認した。

8. 学術コミュニケーション技術セミナー(JPCOAR Monday) 講師の推薦について(依頼)

事務局より、資料 8-1 について説明があり、審議を行い、原案のとおり承認した。

9. 『情報の科学と技術』への寄稿について(依頼)

事務局より、資料 8-2 について説明があり、審議を行い、承認した。執筆者については委員で調整の上、分担することとした。

10. フォーラム・セミナー等の参加状況について(報告)

事務局より、資料 9-1 について説明があった。

11. CiNii Research に関する検討会の設置について(報告)

事務局より、資料 9-2 について説明があった。

以上